

10 陸奥宗光の生き方

月 日 曜日

陸奥宗光は、弘化元年（1844年）に紀州藩の重臣伊達千広の第六子として、現在の和歌山市吹上で生まれました。

文久2年（1862年）に紀州藩をはなれ、よく年、勝海舟の海軍塾に入り、坂本龍馬らと知り合い行動をとともにします。

その後ヨーロッパに渡り、三年間西洋近代社会の仕組みを知るために猛勉強をしました。そして、外交官として活やくするようになります。

明治21年には、アメリカのワシントンで仕事を始め、日墨（日本とメキシコ）修好通商条約の調印に成功します。この日墨修好通商条約は、陸奥宗光とロメロ駐米メキシコ公使との間で協議された条約で、近代日本国家が諸外国と締結した最初の平等条約でした。この条約が、日本の国際社会における平等外交の始まりであるといわれ、高く評価されているのです。

その後も、伊藤博文内閣で、外務大臣として不平等条約の改正に力を尽くし、明治27年にはロンドンで日英通商航海条約を調印します。これによって、治外法権のてっぺいと関税自主権の一部回復に成功したのです。

さらに、次の年には、下関で日清戦争講和条約の全権団として仕事をし、日本で最初の対外戦争の戦後処理を行いました。

このように、陸奥宗光は日本の近代化を進め、外交の基を作った人と言えます。

現在、岡公園には陸奥宗光の全身像が建っています。

ぜひ、会いに行ってみてください。

そして、陸奥宗光が何を願い、どんな熱い思いを持って時代を生き抜いたのか、あなたが歴史資料から想像し、考えたことを問いかけてみてください。



1 陸奥宗光は、どんな人か。まず、図書館などで、宗光についてたくさん資料を探して調べましょう。そのなかから、あなたなりの宗光像をえがいてみましょう。

(1) 陸奥宗光は、 人!

(2) (1) のように言うためには、根きょをしっかりと持っていないとなりませんね。歴史資料に基づいた考え方の根きょをできるだけたくさん書きましょう。